

## 選手たちを迎える久留米市の施設や環境について、教えてください。

「メダルを狙う第一級のアスリートを迎えるのですから、きちんと練習ができることやコンディションを上げられることが何より大切なことです。近代オリンピックは精神論だけの世界ではありません。科学的な見地から選手に対するさまざまなサポートが必要です。

まずは久留米アリーナ。2018年に完成した最新の施設で、しっかりと練習していただけます。特に柔道や格闘技に適した設備がありますから、それらの競技で注目されるカザフスタンの選手を親身にサポートできるでしょう。

そして久留米市は、大学病院など医療面でも恵まれたリソース（資源）を持っています。そういった面でも選手団をしっかりとケアすることができます。

また選手にとっては、トレーニング同様に食べて休息することも重要です。ケニア、カザフスタン両国からやってきた選手に合う生活環境を提供すること、美味しい食事でおもてなしすることも重要だと思います。そのほか、練習場のすぐ近くに、筑後川の豊かな水資源や篠山の久留米城跡や水天宮など、日本の自然・歴史に触れてもらえる場もあります。文化施設でしたら石橋文化センターやシティプラザなどもありますね。日本的な豊かな文化土壌を身近に感じながら、練習してもらいたいですね。」



## 印象に残っているオリンピック大会やスポーツへの思い出など、市長ご自身の思いを聞かせてください。



「1998年長野オリンピックの開催当時は東京に住んでいて、世界レベルの戦いがすぐ近くで行われる興奮を感じました。さかのぼりますが、1972年札幌オリンピックもスキー・ジャンプ競技の日本選手団の活躍が素晴らしく、心に残っています。

夏の大会では、柔道や体操、水泳など特に日本選手の活躍がめざましい種目では、毎回大きな感動をもらっています。

私は趣味でランニングをしています。実はハーフマラソンのタイムはケニアのキプチョゲ選手と私の記録はあまりかわらないほどです。だからといって、当然私がマラソンの世界記録更新を狙えるわけではありません（笑）。私がハーフでゴールした地点から、キプチョゲ選手はそのままスピードを保ってさらに倍の距離を駆け抜ける。走るという行為は同じでも、私たち愛好者とはもう別の世界なのです。それを身近で見たい、体感したいですね。

柔道はまた感覚が違うでしょうね。私よりも一回り二回り大きな選手が、俊敏な動きで戦い抜く。人間の身体能力を最高まで鍛え上げた姿を目の当たりにする、これがオリンピックの世界なんだと思います。

久留米の子供たちにも、モニター越しの映像だけではなく、世界最高峰の選手の存在を直接感じて欲しいですね。選手と握手したら、山のように大きな体格でもう目の前がいっぱいになるとか。そういう思い出に残る経験をしてもらいたい。」